



し せい 至 誠

種子島中央高等学校
生徒指導部より
平成30年度第2号
平成30年7月20日発行

～ 夏休みを有意義に過ごそう ～

今年は44日にも及ぶ長い夏休みとなります。家庭での生活が、その中心となります。この長期の休みを利用して、普段は時間をかけてできないことや家族とのふれあい、地域貢献などに努めましょう。そして、「今年の夏休みはこれがんばった」という達成感を得られるような挑戦をしてみてください。夏休みを通して、次のような生徒となれるように充実した夏休みにしてください。

- ・ 当たり前のことが当たり前できるとともに、何事にも挑戦し続ける生徒
- ・ 自分自身の心を厳しく律し、他人や地域社会（郷土）を愛する生徒

また一方で、夏休みは学校生活を離れた解放感から不規則かつ奔放な生活になり、色々な問題や事故の原因を作ることが多い期間でもあります。そうならないように、各個人が目標を立て、家庭学習を中心に規則正しい生活が送れるよう心がけましょう。皆さんが、一段と成長して、元気に2学期登校してきてくれることを楽しみに待っています。

～ 夏休み中の生徒心得 ～

1 計画的に学習に取り組むこと。

- (1) 夏季補習の実施（予定）
前 期・・・7月23日～7月31日（全学年）
※7月30日は中学生一日体験入学のため3年1組のみ実施
後 期・・・8月20日～8月29日（全学年）
登校日（2，3組） 7月27日，8月20日（頭髪服装容儀指導，宿題確認など）
※無断欠席や遅刻等がないようにしましょう。
- (2) これまでの学習を振り返り、弱点を補強する期間にしましょう。この期間の学習が2学期以降の大きな差につながります。生活を律して、「単位修得」・「進級」・「進路実現」・「卒業」を自らの努力でつかみ取ろう。
- (3) 夏休みの課題は計画的な取組と自らの努力で期限内提出をしよう。 休み明けには、課題考査も計画されています。（9月11日～12日）

2 充実した家庭生活をする。

- (1) 1学期の反省と将来の進路について家族と一緒に考えてみよう。また、帰省した兄姉や先輩から、「進路」や「社会人としての心構え」について話を聞いてみよう。
- (2) 家の手伝いをしよう。
- (3) 読書に努め、新聞を読もう。
- (4) 夏休み中も学習中心の生活を送ろう。
- (5) 地域の行事には積極的に参加しよう。

3 健康第一，大切な生命

- (1) 暴飲・暴食を避け、熱中症にも十分留意して健康管理をする。無理をしないことやしっかり休息をとるなどの配慮を怠らないようにしましょう。
- (2) 自転車の二人乗り，信号を無視した道路横断，並進など自分勝手な交通違反は，直接，交通事故の原因になります。傘差し等運転，携帯電話等使用，ヘッドホン等使用も禁止です。
- (3) 単車の運転には十分注意しよう。（スピード超過・一時不停止違反）
- (4) 無免許運転，無断免許取得（普通免許，自動二輪を含む）→ 絶対禁止！！
※「自転車・原付車安全利用モデル校」宣言校であることを自覚しよう！
- (5) 生徒も保護者の皆さんも学校正門付近の出入りには十分に注意してください。

4 種子島中央高校生としての自覚と誇りを持つよう。

- (1) 高校生としてあるまじき行為をしない。
暴力行為，ゆすり・たかり，深夜暴走，いじめ，危険ドラッグなどの薬物使用や喫煙・飲酒・深夜徘徊・ゲームセンター・パチンコ店出入り等の問題行動がないようにしましょう。また，流行を追う服装や物欲しさは万引・窃盗に発展することがあります。我慢する心を大事にしよう。
- (2) 高校生の行き過ぎた男女交際や性の問題行動が指摘されています。お互いを尊重し，節度ある交際の心がけましょう。
- (3) 友人宅等に外泊をしたり，深夜徘徊をしたりしてはいけません。
- (4) 遊泳禁止場所への立ち入りや危険な箇所への接近は避けてください。なお，島内における指定海水浴場は，浦田海水浴場・能野海水浴場（西之表），熊野海水浴場（中種子），浜田海水浴場（南種子）のみとなっています。※ 生徒だけのサーフィンを認めておりません。
- (5) 不審者を見つけたらすぐにその場から立ち去るとともに，保護者・学校・警察等へ速やかに連絡することが大切です。特に女子生徒の皆さんは，服装等（素肌をあまり露出しない）に注意するなどの防犯対策も必要です。外出時間は日没までとなっています。日没後に帰宅の際は，人通りの少ない場所は歩かない，街灯のある道を歩きましょう。
- (6) 携帯電話，スマートフォン，インターネット，ゲーム等の使用については「家庭内ルール」をしっかり守って，適切な使用をしましょう。全国的に高校生のSNSに起因する事件，事故が多発しています。
- (7) 「アルバイト・旅行，集会・単車受験」等の各種の許可願については，事前に担任に相談し，指示を受け，早めに担当教員の許可印をもらいましょう。
- (8) 登下校時（補習，部活動等）の服装は，制服，正課体育服・ジャージ，部活動チームジャージ等です。靴も決められたとおりです。しっかり守りましょう。

5 夏休み中の主な行事

- 7/23(月) 単車実技講習会 7/29(日) 親子ふれあい奉仕作業(2年) 7/30(月) 中学生一日体験入学
8/ 4(土) よいらーいき祭り(街頭補導)
8/12(日) ロケット祭り(街頭補導) ※ 花火終了後すぐ帰宅 (21:30頃までには帰宅)
8/26(日) 親子ふれあい奉仕作業(3年) 9/3(月) 第2学期始業式 頭髪服装容儀指導

6 万一，問題や事故が発生した際は直ちに連絡する。

電話番号 : 学校 0997-24-2401 担任 (- -)

①「ヒヤリ・ハット」って何？

皆さんは「ハインリッヒの法則」という言葉を聞いたことがありますか。「ハインリッヒの法則」とは、米国の保険会社で技術・調査部の副部長をしていたハーバート・ウィリアム・ハインリッヒが1928年の論文で主張した災害防止に関する統計のことです。ハインリッヒは5,000件以上に及ぶ労働災害を調べ、1件の重大事故の

背景には、29件の軽い「事故・災害」が起きており、さらに事故には至らなかったものの、一歩間違えば大惨事になっていた「ヒヤリ・ハット」する事例が300件潜んでいるという法則性を示しました。ハインリッヒの法則は、その内容から別名「ヒヤリハットの法則」とも呼ばれ、「1:



出典: Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/ハインリッヒの法則>

29:300」という確率はその後の災害防止の指標として広く知られるところとなりました。

現代において、あらゆる安全管理の基礎となっているハインリッヒの法則は、単に労働災害に留まらず人為的ミスによる災害を検証するうえでも大変重要な法則となっています。その後、安全管理の分野の研究が進み、アメリカのフランク・バードが同国の21業種297社、1,753,489件のデータから「重大事故:軽傷事故:物損事故:ニアミス=1:10:30:600」というデータや、70年代にはイギリスの保険会社が約2万件のデータから「重大事故:軽中傷事故:応急処置を施した事故:物損事故:ニアミス=1:3:50:80:400」という、より細かな確率が示されていますが、根源にあるのはハインリッヒの法則です。

災害防止の父と呼ばれるハインリッヒは「**重大事故の98パーセントは事前に防げる**」と語り、些細な「ヒヤリハット」を見逃さずに対策していくことの重要性を説いています。ハインリッヒの言いたかったこと、それは**いかなる不祥事・重大事故も決して偶発的に起きたものではなく、小さな予兆に気を配っていれば必ず事前に防ぐ事ができる**ということなのです。

ここで皆さんの日常生活、特に交通安全のことについて考えてみてください。学校に登校する際、休日に部活動に参加する際、その他様々な場面でどれだけの「ヒヤリ・ハット」した経験があるでしょうか。些細なことの積み重ねが大きな事故を引き起こします。日頃から、意識して交通安全に心がけましょう。参照 「知的好奇心の扉 TOCANA」

② 制服「着こなし」てますか？「着崩し」てますか？

夏休みを目前に控え、暑くてじっとしていることもつらいですね。

そこで、少しでも涼しくなろうと皆さんの涙ぐましい工夫が見られます。男子生徒はシャツの下からインナーのすそまで出してみたり、ズボンのすそを膝まで折り返してみたり…。女子生徒もスカートを短くしたり、たくし上げてイスに座っていたり。中には肌着をつけていない生徒もいるようです。そうすることで確かにいくらかは涼しくなっているかもしれませんが、見た目として、また衛生的にはどうでしょうか。

このような「着崩し」た格好をしていて注意を受けた人も多いと思いますが、なぜ制服を「着崩し」てはいけないのか、考えてみたことはありますか？

言うまでもなく、「制服」とは団体として着ることが決められた、統一されたユニフォームです。このユニフォームを着用することは、社会に対して「私は種子島中央高校の生徒です」と表明することであり、社会からもそのように認識される目印でもあるのです。つまり、決まりがなく、統一されていないものはユニフォームとならないばかりか、「着崩し」た制服を着ている人は「種子島中央生」でもなくなるのです。**制服は正しく「着こなし」てこそ格好よく、品格が生まれるもの**です。暑いから、寒いから、関係なく学校内外で正しく制服を着こなしてください。



【 考えてみよう 】

1年生は入学して四ヶ月。だいぶ学校にも慣れ、制服も体に馴染んできたようです。夏休みを控え、楽しみな予定もあることでしょうか。補習のない生徒はしばらく制服を着用しなくなりますが、休みの日に制服を着るのはどんな場合でしょうか？

2年生は先日インターンシップに参加しました。そこで社会人としてのマナーや責任感など、多くのことを学んできたことでしょうか。その中で、職場の制服を貸してもらい、ほかの従業員の方々と同じように現場で作業をしたり、接客をしたりした人もいたようです。普段と違う制服を着用し職場体験をする気持ちはどんなものだったでしょうか？

3年生は多くの人が部活動から進路活動に励む時期となりました。夏休み中には就職希望の生徒には面接練習などが行われる予定です。本番を想定してみましよう。どんな言葉使い、どんな表情、どんな姿が好ましく映るでしょうか？

1年生に限りませんが、休みの日に制服を着る機会というのは、結婚式やお葬式、つまりフォーマルな場面です。そんな時に制服を「着崩し」ているのは、やはり場の雰囲気とそぐわないものです。

インターンシップ先で制服を貸してもらった**2年生**は、「この職場の一員として見られるからしっかりとした態度をとって、迷惑をかけないようにしよう」と緊張感を持って仕事に励んだかもしれません。そのような一人一人の気持ちが社会からの信頼につながるのかもしれない。

就職試験に臨む**3年生**は、当然、制服を着て面接を受けます。心は「形」に表れるといいます。「着崩し」た形からはどんな心が見えてくるのでしょうか。短い時間で終わる面接もあります。その限られた時間できちんとした身なりにふさわしい、自分の魅力を最大限にアピールできるようにしていきましょう。制服が社会に対して与える役割を再認識でき、正しく着こなすことで種子島中央生としての自信や誇りを感じてくれればと思います。

